

# ほほえみだより

吉田保育所 平成25年3月

『ほほえみだより』『給食便り』はホームページでもご覧いただけます。 <http://hohoemi-yoshida.com/>

吉田保育所 検索

人生最初の乳幼児期に、どれだけ大切にされ愛されたかということ、どんな経験をどれだけ積み重ねたかということが、生涯にわたる人間形成を左右するはず。大切な子どもたちの大切な日々を、ご家族と共に大切にしていきたいと思えます。



## トトロの山で・・・

トトロの山とは、益田興産所有の多田町から元町にかかる山です。自由に入って遊んでいいよとされているので、時々利用させてもらっています。

トトロはいないけれど、ヤギの親子がいます。遊具な何一つありませんが、子ども達は山肌を登ったり下ったり、思う存分に遊んでいます。

2月21日、これまでゆり組・すみれ組・さくら組だけが行っていたトトロの山に、初めてもも組(4名)が参加しました。

山までの道をしっかり歩き、自然の中でのびのびと遊び、お兄ちゃん達顔負けのたくましさを見せてくれた2才児さんたちでした。



転がっていた丸太がシーソーになりましたよ。



木の枝だけで色んな遊びが始まります。狭い園庭では振り回すことができませんが、ここならOK!



応援スタッフ「やまちゃん」の指導によって作ったロケットストーブ。トトロの山で、枯れ枝や木の葉を燃やして温まったり、お汁を温めたりします。



お休みの日、どこに行こうかな～と思うときには、どうぞ親子でトトロの山に行ってみてください。

## 3月の予定表

- 1日(金) お茶の日(さくら組)
- 2日(土) おいしい懇談会 18:30~20:00
- 5日(火) ひな祭り誕生会
- 9日(土) 保護者会主催懇親会(会場:「いろり」)

☆是非ご参加下さい!

- 12日(火) お別れ会
- 13日(水) お別れ遠足、弁当の日
- 14日(木) 音楽で遊ぼう!(さくら組・すみれ組)
- 15日(金) 英語で遊ぼう!(さくら組)
- 19日(火) 避難訓練
- 21日(木) 音楽で遊ぼう!(ゆり組・もも組2才児)
- 23日(土) 卒園式

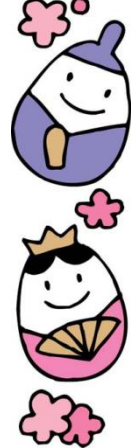
☆新年度の保育は4月1日(月)から、入所式も4月1日(新入園児の保護者参加)です。



## 3月生まれのおともだち

1日	今立 りゆうと さん	1才
3日	中島 たかみね さん	2才
8日	福原 ゆら さん	6才
9日	三浦 こはる さん	3才
10日	川崎 のの さん	4才
12日	梅津 るい さん	4才
15日	大住 ひろき さん	2才
16日	土佐岡 はるね さん	6才
19日	和崎 ことね さん	3才
20日	兵頭 しおん さん	6才
22日	境 こはく さん	1才
28日	浅沼 りょうた さん	6才
30日	松本 りお さん	6才

おめでとう



※発表会会場の忘れ物『三脚』がいまだに事務室に置いてあります。持ち主は吉田保育所の発表会を見に来られた方のはずなので、当日三脚を持って行かれた方は、今一度ご確認ください。祖父母などのご家族にも聞いてみて下さい。よろしく願いいたします。

2月27~28日、さくら組さんは原浜保育所のお友達と一緒に少年自然の家(江津)で合同お泊り保育を行いました。



親から離れて寝ることも、一人で風呂に入ったたり着替えたりすることも、ちゃんと出来るようになったさくら組さん、山道を歩くことも、お友達と相談したり協力し合うことも、しっかり身に付いて頼もしくなった子どもたちです。

この一年の交流保育の締めくくり、最後の交流お泊り保育でした。森の中に隠れているおもちゃを探したり、指示された木を探しながら山道を歩いたり、小枝や木の葉などを組み合わせてキーホルダーを作ったり、自然に親しむ活動をたっぷり行った1泊2日でした。



子どもは、朝保育所や学校に行きたくないと思うとき「お腹が痛い」と言うことがあります。食事中も、食べたくないおかずがある「お腹が痛い」とか、「気持ち悪くなった」と言うことがあります。なぜなのかな?とどうして?...

一つの理由は、子どもの心と体が未分化だということ。子どもの心と体は大人以上に密接に関係しているのだそうです。

大人なら「仕事のストレスだな」「なにごと自覚できませんが、子どもにはその力がまだ無くても、そもそも自分の心身の変化に気づく力が未熟で、心と体を分けて考えることができないためです。

「なんだか具合が悪い」という漠然とした感覚が、「お腹や頭の痛み」になってしまふようです。

「行きたくない」という気持ちから発した腹痛であっても、本人はそ

のことを自覚していません、「行きたくないからでしょ!」と言われても分かりません。

二つ目の理由は、子どもは表現力が未熟だということ。感じて自分の気持ちを、的確に言葉で伝えることができないためです。

一見、「体には何も問題ないのに」という状況ですが、子どもは仮病や嘘をついている訳ではないのですから、親や周囲の大人は、子どもの痛みをきちんと受け止めて、何かストレスがあるのではないかな?と考えてあげましょう。

「またウソでしょ!」なんて言わないで、優しく「どこが痛いのかな」などと話しながら、お腹をさすったりして、親子のコミュニケーションの機会にするといいですよ。

(参考文献「母子保健」2月号)

